

日本平和大会 in 沖縄に参加して

2007.11.23~26

熊本民商事務局 井芹

沖縄はまだ戦場だった？ 平和の島を 命どう宝

平和大会で沖縄に行きました。はじめて「がま」に入り、戦争の悲惨さを再確認しました。過去のことでなく、現実におすすめられている基地再編と平和憲法の改悪をやめさせないと世界と日本の真の平和はないと感じてきました。

美しい島と、空と海、おいしい泡盛、人のやさしさ、沖縄のすばらしさを感じるたびに平和のために今年も自分の出来ることを一步一步広げていきたいと思えます。

全体集会

開会総会...◎オープニングは「沖縄文化」「映像と語りの開催地沖縄の紹介」 ◎あいさつには、沖縄選出参議院議員の糸数慶子さん、11万結集の教科書検定意見撤回を求める県民大会実行委員会の代表 ◎海外代表はアメリカ・イタリア・韓国・エクアドルから参加。◎全国の平和を守る取り組みが総結集...沖縄、辺野古、高江の住民ぐるみのたたかい・アフガンの現場からの訴え・横須賀・座間・岩国のたたかい・変化する自衛隊、日米合同演習反対のたたかい・憲法9条守れ、対テロ新法反対の全国の取り組み

全体総会...◎特別報告...イラクの状況を訴える(ジャーナリスト) ◎特別報告...沖縄戦にかかわって ◎軍需産業・教育・東京大空襲など戦争の実相・被爆者・自衛隊の実態・ミサイル防衛・百里・新田原など米軍基地移転反対のたたかいなどが多彩に報告。

分科会...国民生活、沖縄県民の暮らしと基地・安保

戦争する国づくりをねらう自公政権と国民の激しいせめぎ合いが続く中、軍事費の無駄遣いや基地の存在が国民の暮らしを圧迫している現状を理解し、その背景にある軍事同盟を打破し、基地撤去の運動を推進するための学習と交流を深めあいました。

全商連や民商関係者も参加していました。熊本からの代表は2人参加。私も発言できました。



辺野古で人間の鎖(右の写真)

平和大会3日目、辺野古のキャンプシュワブを地元沖縄の人と全国からの参加者全員約1500人で取り囲みました。



南部戦跡巡り

大会最終日、熊本県代表団は早朝から魂魄の塔(35000柱の遺骨)ひめゆりの塔、平和祈念資料館など、南部戦跡巡りをおこないました。牛島司令官が「死ぬまで敵と戦え」と言い残して自決したため、最後は子どもを含む住民を巻き込んで被害を拡大しました。まさに「国体護持の捨て石」としての沖縄の姿を痛感しました。

糸数壕(アガチガマ)見学

全長270mの鍾乳洞。沖縄戦の激化で南風原陸軍病院の分院が置かれた。ひめゆり学徒隊も配置され一時600人以上の負傷兵で埋め尽くされた。5月25日に分院も南部撤退。一部重症患者は青酸カリで殺された。その後ガマは日本兵と住民が入り交じった避難生活の場となる。朝鮮人「慰安婦」は危険な場所に追いやられていた。地上は6月初旬には米軍に占領され、「戦後」となっていたが、壕内の住民は日本兵により投降できず、彼らが壕をでることができたのは8月22日でした。戦跡調査のハイライト的ガマで、沖縄戦を如実にあらわす価値のあるものです。

沖縄戦の実相にふれるたびに戦争というものはこれほど残忍でこれほど汚辱にまみれたものはないと思うのです

この生々しい体験の前ではいかなる人でも戦争を肯定し美化することは出来ないはずで戦争をおこすのは確かに人間です

しかしそれ以上に戦争を許さない努力のできるのも私たち人間ではないでしょうか。

戦後このかた私たちはあらゆる戦争を憎み平和な島を建設せねばと思いつづけて来ました

これがあまりにも大きすぎた代償を払って得たゆずることのできない私たちの信条なのです



27名の熊本県代表団懇親会 沖縄料理と泡盛で乾杯